

「第2次高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について

【こどもプロジェクト】 恵まれた地域資源の中で想像力を育む

No	主な取組事業名	主な取組事業概要	昨年度決算額及び今年度予算額	実施実績	実施実績	実施実績の前年度からの上昇率	令和元年度事業内容	令和2年度事業見込	今後の方向性 (拡充、継続、改善 継続、縮小、統合、 完了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)
1	芸術士派遣事業	<p>芸術士が本市内の公私立の保育所・こども園と、公立幼稚園を分担し、日々の保育及び教育の中で保育士等と連携しながら、子どもたちと造形活動や身体表現等、様々な表現活動をしています。</p> <p>芸術士は、子どもたちの無限の可能性を信じ、子どもたちの感性と創造力を最大限に引き出す手助けをし、子どもたちと社会をつなぐ架け橋として子どもたちの創造力の育成に努めています。</p>	<p>昨年度決算額：38,000千円 今年度予算額：37,692千円</p>	派遣箇所数	<p>平成25年度 27か所 平成26年度 35か所 平成27年度 40か所 平成28年度 40か所 平成29年度 40か所 平成30年度 43か所</p>	107.5%	<p>平成21年から実施してる事業であるが、今後も、芸術士を保育所等へ派遣を行い、それぞれの芸術分野を生かしながら、子どもが持っている感性や創造力を伸ばしていけるよう導くとともに、指導方法の共有化や人材の確保に努める。</p>	<p>平成21年から実施してる事業であるが、今後も、芸術士を保育所等へ派遣を行い、それぞれの芸術分野を生かしながら、子どもが持っている感性や創造力を伸ばしていけるよう導くとともに、指導方法の共有化や人材の確保に努める。</p>	継続	こども園運営課
2	0才からのコンサート	<p>0歳から3歳くらいまでの子どもとその保護者（妊婦を含む）を対象に、親子で一緒に楽しめるクラシック・コンサートの鑑賞の機会を提供し、乳幼児をもつ保護者へのひとときの安らげる時間を提供するほか、乳幼児には幼い頃から音楽に触れる機会を提供し、音楽文化の創造に関心を深めることを目的に実施します。</p>	<p>昨年度決算額：1,000千円 今年度予算額：1,000千円</p>	観客数	<p>平成25年度 実績なし 平成26年度 463人 平成27年度 602人 平成28年度 559人 平成29年度 641人 平成30年度 361人</p>	56.3%	<p>バランスよく市内会場を活用し、年4回のコンサート開催を継続。</p>	<p>生の音楽鑑賞機会から遠ざかりがちな子育て世帯を対象とするこのコンサートは、来場者アンケートで多くの方から満足したとの回答を得ているほか、募集開始早々に定員に達するなど人気が高いことから、引き続きコンサートの開催を継続し、より多くの市民が音楽に触れる機会を提供する。今後の開催に当たっては、市民の利便性等も踏まえ、様々な会場を検討する。</p>	継続	文化芸術振興課
3	ものづくりふれあい教室事業	<p>小・中学生を対象に、ものづくりにチャレンジしながら、文化の創造に関心を深め、ものづくりの大切さを体験する機会を提供します。</p> <p>今後は、工芸の視点も取り入れ、子どもたちに日本の伝統文化の魅力も伝えていきます。</p>	<p>昨年度決算額：480千円 今年度予算額：480千円</p>	参加数	<p>平成25年度 829人 平成26年度 861人 平成27年度 1,223人 平成28年度 1,025人 平成29年度 651人 平成30年度 760人</p>	116.7%	<p>計20校において、5メニューで21回実施。</p>	<p>引き続き事業を継続し、情操教育の一環として役立てる。</p>	継続	文化芸術振興課
4	学校巡回芸術教室・能楽教室事業	<p>小・中学生の情操教育の一助とし、健全育成に資するため、学校巡回形式で、生の優良な芸術や古典芸能を鑑賞し、体験する機会を提供します。</p> <p>能楽、歌舞伎等の伝統芸能を身近に鑑賞、体験できる機会の提供（ホール公演、新能等）についても検討していきます。</p>	<p>昨年度決算額：4,728千円 今年度予算額：4,763千円</p>	【学校巡回芸術教室】参加者数	<p>平成25年度 8,360人 平成26年度 7,097人 平成27年度 12,283人 平成28年度 9,876人 平成29年度 7,983人 平成30年度 9,147人</p>	114.6%	<p>12メニューを21校で実施し、情操教育の一環として役立てる。</p>	<p>引き続き事業を継続し、情操教育の一環として役立てる。</p>	継続	文化芸術振興課
				【能楽教室事業】参加者数	<p>平成25年度 2,172人 平成26年度 2,965人 平成27年度 1,555人 平成28年度 3,617人 平成29年度 3,243人 平成30年度 2,650人</p>	81.7%	<p>3メニューを6校で実施し、情操教育の一環として役立てる。</p>	<p>引き続き事業を継続し、情操教育の一環として役立てる。</p>	継続	文化芸術振興課

「第2次高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について

【こどもプロジェクト】 恵まれた地域資源の中で想像力を育む

No	主な取組事業名	主な取組事業概要	昨年度決算額及び今年度予算額	実施実績	実施実績	実施実績の前年度からの上昇率	令和元年度事業内容	令和2年度事業見込	今後の方向性 (拡充、継続、改善 継続、縮小、統合、 完了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)
5	劇団四季ミュージカル「こころの劇場」	高松市において実施される劇団四季「こころの劇場」ミュージカル公演について、本市並びに瀬戸・高松広域連携中核都市圏域内の児童（小学6年生）を招待します。	昨年度決算額：1,070千円 今年度予算額：1,133千円	鑑賞者数	【観客数/回数】 平成25年度 4,985人/1公演6回 平成26年度 5,323人/1公演6回 平成27年度 5,362人/1公演6回 平成28年度 5,303人/1公演5回 平成29年度 4,997人/1公演5回 平成30年度 5,144人/1公演5回	102.9%	「カモメに飛ぶことを教えた猫」の公演を5回実施し、各市町の小学6年生及び教員を招待する。	引き続き、舞台劇の鑑賞をとおして、児童の情操を涵養することを目的に事業を継続実施する。	継続	文化芸術振興課
6	地域密着型トップスポーツチームの活用	カマタマーレ讃岐等、4つの地域密着型トップスポーツチームを活用し、学校訪問や試合への無料招待等、子どもたちに直接選手等に触れ合う機会を提供することで、子どもたちの向上心や創造力の育成を図ります。 平成29年度からは、香川ファイアローズの選手が施設（市内幼稚園・保育園、小・中学校など）を訪問し、交流を深めることで、広く市民にチームをPRし、ファン層の拡大や青少年の健全育成等を図ることを目的として、新たに「ホームタウン推進事業」を実施しています。さらに、30年度からは、カマタマーレ讃岐を本事業の対象とするなど、今後も、香川県やトップスポーツチームと連携を図りながら、様々な機会を通じ、より多くの子どもたちにトップスポーツチームの選手等と触れ合える機会を提供していきます。	昨年度決算額：16,714千円 今年度予算額：15,643千円	教室等開催回数	平成25年度 15回 平成26年度 11回 平成27年度 10回 平成28年度 7回 平成29年度 65回 平成30年度 109回	167.7%	地域密着型トップスポーツチームを活用し、引き続き、幼稚園・小中学校等への訪問や高松市民応援デー等における試合への無料招待などを実施していく。また、練習・教室使用料補助事業を通じ、地域密着型トップスポーツチームが市内におけるスクール事業の拡大に向けて取り組むなど、今後においても、子どもたちの向上心や創造力の育成を図っていくため、県や地域密着型トップスポーツチームと連携を図りながら、様々な手段を通じ、一人でも多くの子どもたちに選手等と触れ合える機会を提供していく。	地域密着型トップスポーツチームを活用し、引き続き、市内幼稚園・小中学校等への訪問や高松市民応援デー等における試合への無料招待などを実施していく。また、練習・教室使用料補助事業を通じ、地域密着型トップスポーツチームが市内におけるスクール事業の拡大に向けて取り組むなど、今後においても、子どもたちの向上心や創造力の育成を図っていくため、県や地域密着型トップスポーツチームと連携を図りながら、様々な手段を通じ、一人でも多くの子どもたちに選手等と触れ合え、夢を実現する機会を提供していく。	継続	スポーツ振興課
7	高松市美術館こどもアートスペース	平成28年3月リニューアルに合わせて、高松市美術館内に「こどもアートスペース」を開設しました。“ふらっとアート”では気軽に制作を楽しめるプログラムをシーズン毎に企画提供し、未就学児を始め様々な世代等に親しまれる教育普及プログラムを展開します。	昨年度決算額：206千円 今年度予算額：206千円	子ども対象イベント・講座参加数	平成27年度 537人 平成28年度 1,230人 平成29年度 1,913人 平成30年度 2,355人	123.1%	「こどもアートスペース」を活用し、未就学児はじめ様々な世代に親しまれる教育普及プログラムを展開していく。特に“ふらっとアート”では気軽に制作を楽しめるプログラムをシーズン毎に企画提供し、幅広い世代に楽しんでいただく予定。また、子ども向けの美術図書や絵本を自由に閲覧していただく。	「こどもアートスペース」を活用し、未就学児はじめ様々な世代に親しまれる教育普及プログラムを展開していく。特に“ふらっとアート”では気軽に制作を楽しめるプログラムをシーズン毎に企画提供し、幅広い世代に楽しんでいただく予定。また、子ども向けの美術図書や絵本を自由に閲覧していただく。	継続	美術館美術課

「第2次高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について

【こどもプロジェクト】恵まれた地域資源の中で想像力を育む

No	主な取組事業名	主な取組事業概要	昨年度決算額及び今年度予算額	実施実績	実施実績	実施実績の前年度からの上昇率	令和元年度事業内容	令和2年度事業見込	今後の方向性 (拡充、継続、改善 継続、縮小、統合、 完了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)
8	こども未来館わくわく体験事業	子どもを中心とした幅広い世代の人々の交流、子育てに係る支援並びに学習及び体験活動の場を提供することにより、子どもの夢や想像力を育むとともに、健やかな成長に資するため、遊びや科学、アートなどの体験活動を提供するイベントプログラムや親子で参加できる体験イベントなどの様々な魅力ある事業の提供に努めています。	昨年度決算額：2,551千円 今年度予算額：2,459千円	開館記念事業としての実績： 企画事業入館者数 平成29年度～： こども未来館わくわく体験事業参加者数	平成28年度 6,694人 平成29年度 4,833人 平成30年度 5,550人	114.8%	こども未来館わくわく体験事業に参加した人のアンケート集計結果や高松市こども未来館運営協議会の意見を検討して、魅力ある事業の提供をする。	こども未来館わくわく体験事業に参加した人のアンケート集計結果や高松市こども未来館運営協議会の意見を検討して、魅力ある事業の提供をする。	継続	こども未来館
9	子ども・子育て支援事業	みんなのひろばとブレイルームを子どもと保護者の居場所として提供するとともに、子ども・子育ての相談に対応し、子どもと親がともに育ち合う子育て支援機能とふれあい・交流による多世代交流機能を果たすことを目的として実施します。	昨年度決算額：21,488千円 今年度予算額：23,954千円	みんなのひろば・ブレイルーム利用者数	平成28年度 35,082人 平成29年度 76,597人 平成30年度 80,443人	105.0%	来館者アンケートや高松市こども未来館運営協議会の意見を検討して、子どもと保護者のふれあいの場となるよう居場所提供事業をする。	来館者アンケートや高松市こども未来館運営協議会の意見を検討して、子どもと保護者のふれあいの場となるよう居場所提供事業をする。	継続	こども未来館
10	こども未来館学習体験事業	市内の小学校4年生（ただし、学校の状況により5年生以上、学校の希望により、中学校の生徒を対象に実施できる。加えて、連携中枢都市圏の小・中学校も受入れ可能。）を対象として、こども未来館の施設を利用した体験的な学習活動を通して、子どもたちの想像力と探究心を育むことで、健やかな成長に資することを目的に実施します。	昨年度決算額：36,119円 今年度予算額：35,476円	こども未来館学習実施学校数／延べ人数	平成28年度 21校／1,737人 平成29年度 54校／4,558人 平成30年度 61校／4,821人	学校数：113.0% 延べ人数：105.8%	こども未来館学習運営委員会やこども未来館学習事前研修会において、学習の課題を検討して、学習内容の充実を図りながら実施する。	こども未来館学習運営委員会において、こども未来館学習を実施した学校からの意見を踏まえて、学習の課題を検討して、学習内容の充実を図りながら実施する。	継続	こども未来館
11	夢みらい図書館	子ども向けの本を充実させるとともに、おはなし会や読み聞かせ、多様なイベント等を開催するなど、子どもに重点を置いた、子どもも大人も楽しく本に親しむことができる場を提供しています。	昨年度決算額：0千円 今年度予算額：17千円	子ども対象イベント参加者数	平成28年度 496人 平成29年度 2,555人 平成30年度 2,684人	105.0%	子ども向けの本を、より一層充実させるとともに、定例おはなし会を継続実施するほか、今後も、こども未来館ほか関係課とも連携を図りながら、読書に親しめるような多様なイベントを開催し、子どもの読書活動の推進に取り組みます。	子ども向けの本を、より一層充実させるとともに、定例おはなし会を継続実施するほか、今後も、こども未来館ほか関係課とも連携を図りながら、読書に親しめるような多様なイベントを開催し、子どもの読書活動の推進に取り組みます。	継続	中央図書館

No	主な取組事業名	主な取組事業概要	昨年度決算額及び今年度予算額	実施実績	実施実績	実施実績の前年度からの上昇率	令和元年度事業内容	令和2年度事業見込	今後の方向性 (拡充、継続、改善 継続、縮小、統合、 完了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)
12	夏休み親子探検隊リーフレット制作事業	各課が夏休み期間中に小学生の親子を対象として開催する講座をまとめたリーフレットを作成し、市内の全小学生へ配布する。	昨年度決算額：211千円 今年度予算額：229千円	掲載事業数	平成26年度 9 平成27年度 54 平成28年度 82 平成29年度 50 平成30年度 91 令和元年度 95	104.4%	各課が夏休み期間中に小学生の親子を対象として開催する講座をまとめたリーフレットを作成し、市内の全小学生へ配布した。	今後は、広報たかまつや本市ホームページ等、その他の既存媒体を有効活用し、周知を行う。	廃止	産業振興課

「第2次高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について

【工芸プロジェクト】伝統・芸術・デザインで新しい未来を拓く

No	主な取組事業名	主な取組事業概要	昨年度決算額及び今年度予算額	実施実績	実施実績	実施実績の前年度からの上昇率	令和元年度事業内容	令和2年度事業見込	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)
1	伝統的ものづくり学校巡回教室	市内小・中学校へ伝統工芸の職人を派遣し、ワークショップ等を開催することで、高松の歴史を伴う伝統工芸に関する理解や関心を深めるとともに、情操教育の一助に寄与します。	昨年度決算額：638千円 今年度予算額：675千円	参加者数/回数	平成26年度 404人/14回 平成27年度 360人/14回 平成28年度 280人/6回 平成29年度 138人/4回 平成30年度 299人/3回 令和元年度 268人/3回	参加者数：216.7% 回数：75.0%	高松の歴史を伴う伝統的ものづくりに関する教育を推進し関心を深めるとともに、次代を担う子どもたちへの伝統的なものづくりへの理解と関心を深める普及啓発事業として実施した。	伝統的ものづくりの職人を希望のあった小・中学校へ派遣し、話を聞いたり、作品や作業風景を見たりする場を設ける。次代を担う子どもたちの自分自身の住んでいるまちに対する「誇り」や「愛着心」を醸成させることができるような事業となるよう、継続して実施する。	継続	産業振興課
2	伝統的ものづくり親子体験教室	夏休み期間中に小学生親子を対象として、伝統工芸品の制作体験を実施し、地域資源である伝統工芸について理解と関心を深めます。	昨年度決算額：84千円 今年度予算額：84千円	参加者数/回数	平成26年度 111人/4回 平成27年度 242人/10回 平成28年度 294人/10回 平成29年度 230人/8回 平成30年度 300人/12回 令和元年度 326人/12回	参加者数：130.4% 回数：150.0%	親子で地域の歴史と合わせて発達した伝統的ものづくりを学び体験することで、地域の資源としての文化やものづくりについての理解と関心を深めるとともに、内外へ発信出来る人を増加させることが出来るよう、継続して実施する。	親子で地域の歴史と合わせて発達した伝統的ものづくりを学び体験することで、地域の資源としての文化やものづくりについての理解と関心を深めるとともに、内外へ発信出来る人を増加させることが出来るよう、継続して実施する。	継続	産業振興課
3	たかまつ工芸ウィーク	本市の誇る工芸品の展示や販売、工芸を体感する産地ツアーやワークショップなどを市内の店舗や施設で開催する。	昨年度予算額：0千円 今年度予算額：1,300千円	参加施設、店舗、イベント数	令和元年度 42か所・イベント		関係団体等と実行委員会を立ち上げ、市内の店舗や施設同士が繋がりがあい、工芸に特化した週間をつくり、産地ツアーやワークショップ等を実施、高松を工芸の発信地として広く内外にPRした。	令和2年度も、関係団体等と実行委員会を立ち上げ、市内の店舗や施設同士が繋がりがあい、工芸に特化した週間をつくることで、高松を工芸の発信地として広く内外にPRする。	継続	産業振興課
4	高松盆栽振興事業	平成28年度から高松盆栽の普及及び生産拡大の推進を図るために各種事業を実施します。 ○高松盆栽PR事業 盆栽大会への出展など、高松盆栽のPRを実施 ○盆栽産地振興事業 盆栽産地の振興を図るため、産地の活動を支援 ○盆栽輸出振興事業 盆栽の輸出の拡大を図るため、海外盆栽バイヤーとの商談会の開催及び輸出体制の整備を支援	昨年度決算額：3,535千円 今年度予算額：3,946千円	【平成28年度】 ○高松盆栽のPRグッズ等を作成 ○海外盆栽バイヤーとの商談会を実施 【平成29年度】 ○平成29年4月にさいたま市で開催された世界盆栽大会に出展し、高松盆栽のPRを実施	平成28年度 2回 (バイヤーの出身国：ベルギー、ドイツ)	—	高松盆栽の振興を図るため、高松盆栽のPR・輸出振興を支援するとともに、産地の活動の取組みを支援する。	高松盆栽の振興を図るため、高松盆栽のPR・輸出振興を支援するとともに、産地の活動の取組みを支援する。	継続	農林水産課

No	主な取組事業名	主な取組事業概要	昨年度決算額及び今年度予算額	実施実績	実施実績	実施実績の前年度からの上昇率	令和元年度事業内容	令和2年度事業見込	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)
5	高松盆栽の郷推進事業	<p>平成29年度に策定した「高松盆栽の郷」基本構想に基づき、盆栽産地（鬼無・国分寺地区）の伝統的な盆栽文化の一層の普及・定着による「高松盆栽の郷」の産地そのもののブランド化を図るため、4つの基本方針に基づき香川県と連携しながら総合的な産地振興に取り組んでいきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国内需要の拡大 <ul style="list-style-type: none"> 新たな需要創出に向けた取組、盆栽の文化や魅力を伝えるための情報発信・PR活動 ○輸出の拡大 <ul style="list-style-type: none"> 輸出品増加のための取組、輸出基盤の強化や販路拡大への取組、盆栽の文化や魅力を伝えるための情報発信・PR活動 ○産地基盤の強化 <ul style="list-style-type: none"> 盆栽後継者の育成のための取組、生産・販売の基盤強化のための取組 ○高松盆栽の郷づくり <ul style="list-style-type: none"> 「高松盆栽の郷」基本構想に基づくツーリズム等の取組、「高松盆栽の郷」の核となる拠点施設の整備 	<p>昨年度決算額：1,708千円 (予定) 今年度予算額：132,200千円</p>	【平成29年度】 「高松盆栽の郷」基本構想策定			<p>「高松盆栽の郷」基本構想に基づき、①国内需要の拡大、②輸出の拡大、③産地基盤の強化、④高松盆栽の郷づくりを推進するために各種事業を実施する。</p> <p>2019年度については、「高松盆栽の郷」の核となる拠点施設及び研修施設の整備を支援する。</p>	<p>「高松盆栽の郷」基本構想に基づき、①国内需要の拡大、②輸出の拡大、③産地基盤の強化、④高松盆栽の郷づくりを推進するために各種事業を実施する。</p> <p>2020年度については、「高松盆栽の郷」拠点施設のオープンに合わせ、PR事業にも重点をおいて支援する。</p>	継続	農林水産課
6	むれ源平石あかりロード	<p>地元庵治石の普及振興を始め、地域の賑わいづくりを目的として始めた事業で、市としては、源平屋島地域活性化事業を通して、後援しています。</p> <p>「庵治石のあかり」を道路沿いに配置して、源平史跡を巡るイベントで、庵治石とデザイン、史跡を融合した産業観光視点のイベントとして開催、期間中の毎週土曜日に限定したライブ等の多彩なイベントを始め、企画展示や観覧参加者が審査するコンテストの実施など、毎年、県内外から多数の参加者を集める事業として注目されています。</p>	<p>昨年度決算額：1,100千円 今年度予算額：1,060千円</p>	来場者数	<p>平成25年度 75,000人 平成26年度 52,000人 平成27年度 75,000人 平成28年度 80,000人 平成29年度 75,000人 平成30年度 60,000人</p>	80.0%	<p>引き続き、地元庵治石の普及振興を始め、地域の賑わいづくりを目的として、「庵治石のあかり」を道路沿いに配置し、源平史跡を巡るイベントを行う。</p>	<p>引き続き、地元庵治石の普及振興を始め、地域の賑わいづくりを目的として、「庵治石のあかり」を道路沿いに配置し、源平史跡を巡るイベントを行う。</p>	継続	観光交流課
7	A J I PROJECT	<p>地元の石材事業者の加工技術を活用して、暮らしに寄り添う庵治石商品の開発・販路開拓に取り組めます。</p> <p>石材産地である強みを生かし、地域資源である「庵治石」を素材として、消費者の日常生活に「付加価値」を与える新商品の開発に取り組み、石材産地としてのブランドの再構築を行うことで、地場産業の振興を図ります。</p>		出荷点数	<p>平成25年度 約500点 平成26年度 約600点 平成27年度 約1,500点 平成28年度 約1,800点 平成29年度 約2,200点 平成30年度 約2,500点</p>	—	<p>伝統工芸の現代生活への応用・転換事業、地場産業振興事業として、商品の改良、新たな商品開発を実施するほか、国内外の販路開拓をすすめて、ブランド力を高め新たな企業化展開に繋げることを目指す。</p>	<p>地場産業振興に繋げる支援事業として、国内外へ新たな商品開発、ブラッシュアップを行いブランド力を高めた新たな企業化展開に必要な整備等もあわせて行い、産地産業振興の役割を担う企業化をすすめる。</p>	継続	—

「第2次高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について

【工芸プロジェクト】伝統・芸術・デザインで新しい未来を拓く

No	主な取組事業名	主な取組事業概要	昨年度決算額及び今年度予算額	実施実績	実施実績	実施実績の前年度からの上昇率	令和元年度事業内容	令和2年度事業見込	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)
8	盆人プロジェクト	盆栽のキャラクター「盆人」をシンボルに、香川県の盆栽を日本全国のみならず世界へ広めるため活動。地元香川県出身のデザイナー・カメラマン・映像クリエイター・モデル事務所などのさまざまなメンバーで構成。					「世界盆栽プロジェクト」として、平成31年4月頃に高松市特産の松盆栽を世界中にPRするショートムービーを制作予定。また、2020年東京オリンピック・パラリンピックや瀬戸内国際芸術祭2019に向けた活動を検討している。	オリンピック・パラリンピック関係のプロジェクトや動画「盆栽deボンジュール」を海外に広めていく手法を検討している。 また、盆栽の新たな商品開発にも注力する予定で、現在も、「盆栽新商品コンテスト」に応募しているところである。 今後もSNSを活用しながら取組を発信していくほか、「盆栽美術館」のある埼玉県大宮市での活動も見据えている。	継続	—
9	漆芸研究所修了作品貸出事業	香川に関係のある県内外の民間企業・団体に対し、漆芸研究所が保有する優れた修了作品を一定期間無償で貸し出し、香川漆芸作品に触れる機会を創出する。	昨年度決算額：152千円 今年度予算額：300千円	貸出点数／貸出先数	平成28年度 27点/16か所 平成29年度 39点/18か所 平成30年度 39点/16か所	貸出点数：100.0% 貸出先数：88.9%	作品を企業や団体に貸し出し、一目に触れる所に置いてもらうことで、今まで香川漆芸に興味を持たなかった人の目にも触れる機会を作り、香川漆芸を知ってもらうきっかけとする。また、応接室や窓口等に実際に置いてもらうことで、香川漆芸作品をアート作品として認知してもらい、アート作品としての購入を促進する。	本事業は、令和元年度をもって終了。 来年度以降は県単独の新規事業として、香川漆芸事業を実施予定。 高松市からの予算拠出はない。	完了	産業振興課
10	ZOKOKU BRAND推進事業 (漆芸アート魅力再発見事業)	優れた技法をもつ香川漆芸の認知度向上と若手漆芸作家支援のため、若手作家の漆芸美術展や、有力ギャラリー等の招聘を行い、香川漆芸の魅力発信とともにブランド化・販路開拓の足がかりとなる事業を実施する。	昨年度決算額：12,545千円 (内、市1,817千円) 今年度予算額：12,341千円 (内、市1,363千円) ※4：漆芸研究所修了作品貸出事業費を含む額				香川漆芸の技法を用いた装飾を施した製品を制作してハイブランド誌上で情報発信を行うほか、国内最大級の国際的なアートフェア東京に出品し、香川漆芸のPRを行う。	本事業は、令和元年度をもって終了。 来年度以降は県単独の新規事業として、香川漆芸事業を実施予定。 高松市からの予算拠出はない。	完了	産業振興課

No	主な取組事業名	主な取組事業概要	昨年度決算額及び 今年度予算額	実施実績	実施実績	実施実績の 前年度からの上昇率	令和元年度事業内容	令和2年度事業見込	今後の方向性 (拡充、継続、改善継 続、縮小、統合、完 了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)
1	人・農地プラン推進事業	地域での話し合いに基づく「人・農地プラン」の作成・実行により、農地集積・集約化や新規就農・経営継承を促し、農業の体質強化を図ります。 また、国の事業等を活用し、新規就農者等の担い手の定着による地域農業の活性化を図ります。	昨年度決算額：36,576千円（予定） 今年度予算額：51,500千円	人・農地プランの作成地区数	平成25年度 30地区 平成26年度 31地区 平成27年度 32地区 平成28年度 32地区 平成29年度 32地区 平成30年度 32地区	100.0%	地域での話し合いに基づく「人・農地プラン」の作成・実行により、農地集積・集約化や新規就農・経営継承を促し、農業の体質強化を図る。 また、国の事業等を活用し、新規就農者等の担い手の定着による地域農業の活性化を図る。	地域での話し合いに基づく「人・農地プラン」の作成・実行により、農地集積・集約化や新規就農・経営継承を促し、農業の体質強化を図る。 また、国の事業等（農業次世代人材投資資金等）を活用し、新規就農者等の担い手の定着による地域農業の活性化を図る。	継続	農林水産課
2	たかまつ市場フェスタ事業	高松市民の台所としての卸売市場の役割や流通の仕組みを広く市民に周知・啓発するとともに、生鮮食料品等の流通の円滑化と消費拡大を図るため、市民と卸売市場との交流の機会を確保しています。	昨年度決算額：1,500千円 今年度予算額：1,500千円	来場者数	平成25年度 17,000人 平成26年度 17,500人 平成27年度 18,000人 平成28年度 18,500人 平成29年度 19,000人 平成30年度 20,000人	105.3%	来場者アンケートでは高評価を得ており、また、来場者数も伸びているため、現状を維持しながら、更なるPRに努めて来場者数を増やしていきたい。	卸売市場ならではのステージイベント（模擬せり等）や、体験・参加型イベント（魚のつかみ取り）を実施。 例年、来場者アンケートでは高評価を得ており、また、来場者数も年々伸びているため、更なるPRに努めて来場者数の増加につなげる。	継続	市場業務課
3	市場特別開放事業	普段は、許可を受けた人しか入場できない卸売市場で、お買い物をしていただくことにより、高松市民の台所としての卸売市場の役割を知っていただくとともに、市民に親しまれ、市民に開かれた市場づくりを推進しています。	昨年度決算額：137千円 今年度予算額：161千円	実施回数／来場者数	平成25年度 5回／6,900人 平成26年度 5回／5,800人 平成27年度 5回／5,000人 平成28年度 5回／5,200人 平成29年度 5回／5,100人 平成30年度 5回／5,300人	実施回数：100.0% 来場者数：103.9%	来場者数に伸び悩んでいるもののリピーター率が高く、問い合わせも多い。高松市民や近隣の市町民の方々には、ある程度認知されているようだ。最近では、県外からの旅行者の問い合わせが多くなっているため、現状を維持しつつ、「もっとたかまつ」等を通じて、県外からの旅行者にもPRしていきたい。	水産物・青果物・花きの販売、卸売業者の社員による子ども向けワークショップに加え、地元コミュニティ協議会、連合自治会とのコラボイベントを実施。 来場者数は伸び悩んでいるが、リピーター率が高く、高松市民や市場近隣の市町民の方々には、ある程度認知されているようだ。県外からの旅行者へのPRも行い、来場者数の増加に努める。	継続	市場業務課
4	市場DE自由研究事業	小学生及びその保護者を対象に、市場の流通の仕組みや機能を、夏休みにおける自由研究の題材として提供することにより、市場の役割等の知識を深めます。 今後は、市場をより身近に感じていただけるような事業展開とともに、引き続き、市場流通の拡大につながるよう地産地消の題材も取り入れていきます。	昨年度決算額：120千円 今年度予算額：120千円	実施回数／参加者数	平成25年度 6回／226人 平成26年度 6回／218人 平成27年度 6回／202人 平成28年度 6回／194人 平成29年度 6回／180人 平成30年度 6回／181人	実施回数：100.0% 来場者数：100.6%	親子2人1組での応募で、各回15組30人を募集しているが、毎回抽選となっている。リピーター率が高く、口コミでの応募が増えている。体験型見学と講義を行っているため、参加者からは、自由研究が完成すると高評価を得ている。現状を維持しつつ、PRにも努めたい。	市場内の見学や市場に関する講義を行い、夏休みの自由研究の題材を提供している。 親子2人1組での応募で、各回15組30人を募集しており、毎回抽選となっている。リピーター率が高く、口コミでの応募が増えている。体験型見学と講義を行っているため、参加者からは、自由研究が完成すると高評価を得ている。現状を維持しつつ、PRにも努める。	継続	市場業務課

No	主な取組事業名	主な取組事業概要	昨年度決算額及び 今年度予算額	実施実績	実施実績	実施実績の 前年度からの上昇率	令和元年度事業内容	令和2年度事業見込	今後の方向性 (拡充、継続、改善継 続、縮小、統合、完 了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)
5	さぬきうまいもんプロジェクト	【さぬきダイニング】 地元食材を使用した幅広い料理を提供するとともに、観光客にも自信をもって勧められる、情報発信力の高いレストランを認定し、メニュー開発やフェア・ワークショップを通じて地元食材等の認知度向上に取り組みます。	昨年度決算：12,780千円 今年度予算：12,056千円	高松市内のさぬきダイニング認定店舗数/ 県内のさぬきダイニング認定店舗数 (各年度未現在)	平成28年度 市内18店舗/県内27店舗 平成29年度 市内21店舗/県内30店舗 平成30年度 市内20店舗/県内28店舗	95.2%	認定店において、メニュー開発やフェア、ワークショップを通じて、県産食材や香川県の認知度向上に取り組む。	認定店において、メニュー開発やフェア、ワークショップを通じて、県産食材や香川県の認知度向上に取り組む。 また、認定店を募集し、新規に認定する。	継続	—
		【さぬきマルシェinサンポート】 瀬戸内の景観が一望できるサンポート高松において、対面により、生産者がこだわりの野菜や旬の果物、加工食品を販売するほか、地元シェフが県産食材を使った飲食を提供する欧風産直市の開催を支援し、県産食材の認知度の向上とサンポート高松の賑わいづくりを図ります。	昨年度決算：16,500千円 今年度予算：17,500千円	さぬきマルシェinサンポート開催回数 (各年度未現在)	平成25年度 32回 平成26年度 38回 平成27年度 33回 平成28年度 41回 平成29年度 26回 平成30年度 12回	46.2%	地域の食の素晴らしさをPRするマルシェの開催を支援し、引き続き、県産食材の認知度向上に取り組む。	地域の食の素晴らしさをPRするマルシェの開催を支援し、引き続き、県産食材の認知度向上に取り組む。	継続	
6	アスパラ大騒ぎ	地域で生産されるアスパラガスを核に、食や芸術を通して、地産地消の価値や地域活性等、多様な価値を創出、共感できる事業として取り組みます。	H30年度決算額 約30万円 H31年度決算額 約70万円	来場者	【来場者数】 平成25年度 平成26年度 平成27年度 平成28年度 約2,700人 平成29年度 約5,700人 平成30年度 約8,800人 平成31年度 約11,000人 }カウントなし	125.0%	地域のイベントとして一定の認知度が上がり、来場客数も増加している。来場者、出店者、会場の三者の一体感を意識しながら、会場の定着化に努め、事業の安定化、実施体制の組織化を目指す。	令和2年度は、昨年度に引き続き、中央公園を会場として定着させる方向で開催を予定。昨年度のイベントの様子が全国放送され、県内外から問い合わせをいただいております。新たなコンテンツやごみの削減を目指したプランの基、準備を進める。	継続	—
7	高松ブランド農産物育成支援事業	消費者との地産地消を基本とした共生型農業を推進するため、市内で生産された新鮮で良質な農産物や加工品を「高松産ごじまん品」として市民に提供するとともに、情報発信や農業体験教室、料理教室等の開催を通じて市内農産物の需要拡大と市民の健康で豊かな食生活の実現を図ります。 今後も、食育・地産地消の推進、農産物のブランド化を推進するため、継続して事業を行ってまいります。	昨年度決算額：3,500千円（予定） 今年度予算額：3,500千円	高松産ごじまん品関連イベント ・ たかまつ食と農のフェスタ ・ おにぎり教室（保育園・幼稚園を対象） ・ 野菜塾 ・ 料理教室 ・ 農産物のPR（試食・販売等） など	平成25年度 46回 平成26年度 49回 平成27年度 46回 平成28年度 47回 平成29年度 36回 平成30年度 36回	100.0%	高松市農産物ごじまん品推進協議会と連携し、農産物のPR、地産地消・食育、及び6次産業化・農商工連携の推進を図る。	高松市農産物ごじまん品推進協議会と連携し、農産物のPR、地産地消・食育、及び6次産業化・農商工連携の推進を図る。 令和2年度は、たかまつ食と農のフェスタを休止する。	縮小	農林水産課

No	主な取組事業名	主な取組事業概要	昨年度決算額及び今年度予算額	実施実績	実施実績	実施実績の前年度からの上昇率	令和元年度事業内容	令和2年度事業見込	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)
1	高松市・南昌市友好都市提携30周年記念事業	令和2年度に南昌市（中華人民共和国）との友好都市提携30周年を迎えることから、国際交流活動を更に活性化させ、市民の国際感覚の醸成を図るため、記念事業を実施する。		記念事業参加者数				公式訪問団の派遣や記念式典の開催等、両市において記念事業を実施することにより、これまでの交流の継続発展を祝うとともに、国際交流活動を更に活性化させ、市民の国際感覚の醸成を図る。	新規	観光交流課
2	観光客受入環境整備事業	観光客等の満足度向上を図るため、無線LAN等の環境整備や観光案内板を整備して情報提供を行うほか、産学官が連携して外国人観光客の受入環境の整備事業に取り組む。	昨年度決算額：8,508千円 今年度予算額：6,786千円	市内の主な観光施設等利用者数	平成25年度 6,315千人 平成26年度 6,509千人 平成27年度 6,655千人 平成28年度 6,934千人 平成29年度 6,816千人 平成30年度 6,595千人	96.8%	デジタルサイネージの運用及び公衆無線LAN環境整備については、2019年度以降も継続して実施していく。また、今後の観光政策に、両事業から得られるデータをどのように活用していくかを検討する。外国人受入環境整備事業については、平成30年度中に外国人観光客に対応する学生ガイド団体を設立し、2019年度以降、本格的に活動をする。	元年度に本格始動した「高松外国人観光客お助け隊」については、交通の拠点等での声掛け活動に加え、クルーズ船の寄港時や国際的なスポーツ大会等における活動を継続するとともに、活動内容の充実を目指して隊員の増加を図る。 併せて、世界最大の旅行比較サイトBooking.com及びスカイスカナーにおいて2020年に訪れるべき目的地10選に日本で唯一ランクインし、世界から注目が集まるこのチャンスを生かし、観光都市高松として更に多くの観光客に来ていただくために、受入環境の整備を行う。	拡充	観光交流課
3	サンポート高松トライアスロン	サンポートエリアの海と本市中心市街地を会場に、日本全国・世界から幅広い選手たちが参加できる国内屈指の都市型トライアスロン大会「サンポート高松トライアスロン～瀬戸内国際体育祭～」を共催し、参加者及び市民の心と体の健康づくりを推進するとともに、本市及びサンポート高松のPR等、活力あるまちづくりの促進を図ります。 また、平成29年度からは、オリンピックの選考対象に位置づけられている国際大会「アジアカップ」を同時開催し、市民がトップレベルのスポーツを間近に観戦する機会を提供するとともに、スポーツを通じた国際交流にも取り組んでいます。	昨年度決算額：26,870千円 今年度予算額：30,000千円	参加選手数/ ボランティアスタッフ数/観客数	平成25年度 458人/749人/4,500人 平成26年度 514人/676人/12,000人 平成27年度 479人/703人/13,500人 平成28年度 584人/640人/14,800人 平成29年度 687人/1,016人/38,500人 ※平成30年度 -人/-人/-人 令和元年度 666人/1,016人/44,200人 ※荒天により大会中止	114.8%	7月6日（土）、7日（日） NTT ASTC トライアスロンアジアカップ（2019/高松） サンポート高松トライアスロン～瀬戸内国際体育祭～ また、10周年記念事業として、オリンピック、パラリンピアン、パラアスリートを招へいし、市内小学校2校で交流事業を実施した。併せて、7日（日）の大会にも出場していただいた。	7月4日（土）、5日（日） NTT ASTC トライアスロンアジアカップ（2020/高松） サンポート高松キッズトライアスロン大会 サンポート高松トライアスロン～瀬戸内国際体育祭～	拡充	スポーツ振興課
4	魅力にあふれ、人が輝く創造都市推進事業	若い世代が自ら企画・発案した事業の実施に補助することで、若い世代の柔軟かつ創造的な取組の実現を支援し、本市の創造性を高める。	昨年度決算額：6,070千円 今年度予算額：1,748千円	「高松市創造都市推進局フェイスブックページ」いいね!の数	平成26年度 2,726 平成27年度 3,555 平成28年度 4,138 平成29年度 4,388 平成30年度 4,585	104.5%	高松市創造都市推進審議会や高松市創造都市推進懇談会において、本市の活性化に資する御意見をいただきながら、創造都市ネットワーク日本の事業に参加し、本市の取組について積極的にPRする。	高松市創造都市推進審議会や高松市創造都市推進懇談会において、本市の活性化に資する御意見をいただきながら、創造都市ネットワーク日本の事業に参加し、本市の取組について積極的にPRする。	継続	産業振興課
5	専門職短期大学設置支援事業	地域の活性化を担う人材の輩出や、若者の県外流出の抑制等を図るため、高松市公共施設再編整備計画（1次）案において、有識者等の意見を反映した総合評価で「2022年度末までに売却を含めた廃止を検討する」こととされていた高松テルサの跡施設を有効活用し、学校法人穴吹学園が構想する「専門職短期大学」の設置を支援します。		専門職短期大学入学手続完了者数			高松テルサ跡施設について、外壁工事を施工するとともに、学校法人穴吹学園に対する貸付を開始する。	高松テルサ跡施設について、引き続き、学校法人穴吹学園に貸付する。	継続	産業振興課

No	主な取組事業名	主な取組事業概要	昨年度決算額及び今年度予算額	実施実績	実施実績	実施実績の前年度からの上昇率	令和元年度事業内容	令和2年度事業見込	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)
6	創造支援センター運営事業	本市における特色ある事業の創出及び地域産業の振興に寄与するため、四番丁スクエア内に、創造性に富む発想や独自性のある技術を活用した新規事業者等の活動拠点としてのインキュベーター施設（全6部屋）を設置・運営している。	昨年度決算額：262千円 今年度予算額：358千円				継続して事業を実施する。	継続して事業を実施する。	継続	産業振興課
7	グリーン・ツーリズム推進事業	市内のグリーン・ツーリズムの推進を図るため、グリーン・ツーリズム実践者の活動を支援する。	昨年度決算額：226千円（予定） 今年度予算額：0千円				市内のグリーン・ツーリズムの推進を図るため、グリーン・ツーリズム実践者の活動を支援する。（平成31年度予算なし）	市内のグリーン・ツーリズムの推進を図るため、グリーン・ツーリズム実践者の活動を支援する。（令和2年度予算は、パンフレットの印刷のみ）	継続	農林水産課
8	ため池景観整備維持管理事業	ため池景観整備事業等で実施した施設、樹木等の維持管理に関する協定を締結した法人または市長が認める団体に対して補助金を交付し、当該施設等の適正な維持管理を図る	昨年度決算額：8,336千円 今年度予算額：8,336千円	地区数/補助金	平成25年度 17地区/7,697,300円 平成26年度 17地区/7,819,500円 平成27年度 17地区/8,269,600円 平成28年度 17地区/8,135,800円 平成29年度 16地区/7,940,600円 平成30年度 16地区/8,252,500円	地区数：100.0% 補助金：103.9%	引き続き、事業実施に係る支援を行い、当該施設等の適正な維持管理を図る。	引き続き、事業実施に係る支援を行い、当該施設等の適正な維持管理を図る。	継続	土地改良課
9	高松城跡（玉藻公園）をいかした観光振興事業	重要文化財の指定を受けた披雲閣を中心とし、高松城跡（玉藻公園）の観光拠点としての知名度向上及び観光客の増加を図るため、バーチャル高松城の活用や和船体験事業等の事業を行うとともに庭園のライトアップ等、ナイト観光を充実させるイベントを実施。	昨年度決算：7,922千円 今年度予算：7,147千円	入園者数	平成25年度 玉藻公園入園者数 178,807人 平成26年度 玉藻公園入園者数 194,016人 平成27年度 玉藻公園入園者数 218,258人 平成28年度 玉藻公園入園者数 237,946人 平成29年度 玉藻公園入園者数 228,385人 平成30年度 玉藻公園入園者数 202,161人	88.5%	高松城鉄砲隊演武、バーチャル高松城、和船体験事業を継続実施するとともに、宿泊客に高松の夜を楽しんでいただくナイト観光イベントを展開し、観光拠点としての知名度アップと観光客の増加を図る。	引き続き、高松城鉄砲隊演武、バーチャル高松城、和船体験事業を実施するとともに、宿泊客に高松の夜を楽しんでいただくため、官民連携したナイト観光イベントなどを展開し、観光拠点としての知名度アップと観光客の増加を図っていく。	継続	観光交流課
10	屋島山上拠点施設整備事業	屋島の多様な特性・価値を深く知るための機会を提供し、より多くの人に愛着を持ってもらうため、屋島山上に誰もが気軽に立ち寄り、屋島の歴史、文化、自然環境等について学び、交流することができる拠点施設を整備します。	昨年度決算：12,266千円 今年度予算：699,312千円	屋島入込客数	平成25年度 455,771人 平成26年度 511,577人 平成27年度 504,399人 平成28年度 506,682人 平成29年度 498,696人 平成30年度 494,984人	99.3%	屋島山上拠点施設（仮称）建設工事着手予定	屋島山上交流拠点施設（仮称）指定管理者の公募開始及び仮基本協定の締結	継続	観光交流課
11	屋島活性化推進事業	屋島の活性化に向け、屋島の有する特性・価値を将来にわたり継承しつつ、市民を始め、屋島を訪れる人々に広く知ってもらうため、「屋島活性化基本構想」に基づく事業を実施し、屋島を世界に誇れる本市のシンボルとして再生します。 この事業の一つとして、山上を訪れる人々に屋島を知ってもらうため、人が集まり、学び、楽しみ、交流できる拠点となる屋島山上拠点施設を整備します。 また、屋島ドライブウェイの無料化・市道化により、屋島に気軽に訪れることのできる環境づくりが図られていることから、より一層屋島山上への誘客を推進していきます。 さらに、屋嶋城跡城門遺構を整備するとともに平成28年3月に一般公開を開始し、屋島の歴史の掘りおこしと情報発信を行っています。 平成29年に完成した屋島レクザムフィールドについては、四国大会等の陸上競技大会が開催可能であり、棒高跳の公認競技が可能な室内競技場を全国で初めて併設しています。	昨年度決算：221,213千円 今年度予算：1,363,719千円 ※屋島山上拠点施設整備、屋島山上ライブイベント～天空ミュージック～、むれ源平石あかりロードの事業費を含む	屋島入込客数	平成25年度 455,771人 平成26年度 511,577人 平成27年度 504,399人 平成28年度 506,682人 平成29年度 498,696人 平成30年度 494,984人	99.3%	引き続き、源平屋島地域運営協議会において、源平屋島地域のまつり・各種イベントを共同宣伝することにより、源平屋島地域全体の活性化やにぎわいの創出、誘客に努める。また、バス運行事業者による屋島山上シャトルバス運行事業への補助を行い、源平屋島地域への観光客の誘致を図るとともに、新たなアクセス手段の検討や屋島周辺の観光施設への周遊を促す取組みを行いながら、屋島に対する関心を広く醸成する。	引き続き、源平屋島地域運営協議会において、源平屋島地域のまつり・各種イベントを補助・共同宣伝することにより、源平屋島地域全体の活性化やにぎわいの創出、誘客の促進に努める。また、バス運行事業者による屋島山上シャトルバス運行事業への補助や屋島関係情報ポータルサイトの運営を行い、源平屋島地域への観光客の誘致を図るとともに、屋島周辺の観光施設への周遊を促す取組みを行いながら、屋島に対する関心を広く醸成する。	継続	観光交流課

「第2次高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について

【交流プロジェクト】地域を通して世界につながる交流へ

No	主な取組事業名	主な取組事業概要	昨年度決算額及び今年度予算額	実施実績	実施実績	実施実績の前年度からの上昇率	令和元年度事業内容	令和2年度事業見込	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)
12	屋島山上ライブイベント～ 天空ミュージック～	「食」と「音楽」による屋島山上への誘客を目的とし、「屋島夕夜景フェスタ」の開催期間中のいずれかの金・土曜日に、屋島山上において、著名なミュージシャン等による音楽ライブを実施する。	昨年度決算額：2,480千円 今年度予算額：2,380千円	来場者数	平成25年度 1,650人 平成26年度 1,450人 平成27年度 1,110人 平成28年度 1,020人 平成29年度 1,280人 平成30年度 1,100人	85.9%	引き続き、「食」と「音楽」による屋島山上への誘客を目的とし、屋島山上において、著名なミュージシャン等による音楽ライブを実施する。	引き続き、「食」と「音楽」による屋島山上への誘客を目的とし、屋島山上において、著名なミュージシャン等による音楽ライブを実施する。	継続	観光交流課
13	温泉をいかした塩江地域の 観光振興事業	観光客のニーズや嗜好、競争環境の変化等に的確に対応し、地域の持つ魅力を向上させて塩江地域の活性化を図るため、塩江温泉郷観光活性化基本構想に基づき、温泉をいかした塩江地域の観光振興に努めます。	昨年度決算額：74,238千円 今年度予算額：69,381千円	塩江温泉郷観光入込客数	平成25年度 59,392人 平成26年度 64,785人 平成27年度 68,150人 平成28年度 69,039人 平成29年度 70,010人 平成30年度 65,944人	94.2%	・塩江温泉郷観光活性化基本構想に基づく事業の推進 ・道の駅エリア再整備の検討 ・奥の湯エリア再整備基本設計	・塩江温泉郷観光活性化基本構想に基づく事業の推進 ・道の駅エリア再整備基本設計等	継続	観光交流課
14	誘客促進事業	本市への誘客を促進するため、香川県と連携し、高松空港への直行便が就航している台北、上海、ソウル、香港及び成田を対象に観光キャンペーンなどを実施するほか、多言語対応可能な観光案内所の運営や、クルーズ客船の受入事業を行う。 また、広島市、松山市、岡山市及び本市の4市で構成する「瀬戸内4県都市長会」で観光客誘致事業を実施するとともに、(公財)高松観光コンベンション・ビューローを通じて、国内外からの観光客の本市での滞在の促進に取り組む。	昨年度決算額：174,361千円 今年度予算額：192,600千円	観光案内所利用者数(外国人) / 観光関連施設等利用者数	平成25年度 -人/6,315千人 平成26年度 -人/6,509千人 平成27年度 -人/6,655千人 平成28年度 18,597人/6,934千人 平成29年度 18,313人/6,816千人 平成30年度 23,164人/6,595千人	観光案内所利用者数(外国人)：126.5% 観光関連施設等利用者数：96.8%	県と連携し、高松空港国際定期路線就航先や国内線(成田線)を中心に、観光キャンペーンの実施等の誘客活動を実施する。また、外国人観光客の利便性向上のため、常時多言語対応可能な観光案内所の運営を行うほか、クルーズ客船等の誘致・受入事業を行う。 瀬戸内4県都市長会では、4市を巡る広域周遊旅行の提案や誘客促進に向けたプロモーション等を行う。 (公財)高松観光コンベンション・ビューローを通じて、国内外からの観光客の本市での滞在の促進に取り組む。	県と連携し、好調なインバウンドを継続させるためにソウル、上海、台湾、香港の東アジア4路線の維持を図りながら、引き続き国内線(成田線)の誘客活動を実施する。また、外国人観光客の利便性向上のため、常時多言語対応可能な観光案内所の運営を行うほか、クルーズ客船等の受入事業を行う。 瀬戸内4県都市長会では、4市を巡る広域周遊旅行の提案や誘客促進に向けたプロモーション等を行う。 (公財)高松観光コンベンション・ビューローを通じて、国内外からの観光客の本市での滞在の促進に取り組む。	継続	観光交流課
15	さぬき高松まつり	四国の四大祭りの一つとして、また、讃岐路の真夏の夜を彩る祭典として、市民をはじめ多くの観光客にも親しまれており、「ものっそ高松」を合言葉に、「瀬戸の都・高松」にふさわしい一大イベントとして、中央公園・中央通り・サンポート高松をメイン会場に、盛大に開催する。	昨年度決算額：66,198千円 今年度予算額：67,538千円	入込客数	平成25年度 650,000人 平成26年度 620,000人 平成27年度 650,000人 平成28年度 620,000人 平成29年度 610,000人 平成30年度 580,000人	95.1%	8月12日～14日にかけて、中央公園において、さぬき高松まつり「お祭り広場」を開催する。また、8月13日には、サンポート高松において、花火大会を実施し、14日には中央通りを中心に総おどりをを行う。	昨年度は荒天のため花火大会及び総おどりが中止となったこともあり、令和2年8月12日～14日にかけては中央公園のオープニングイベントを皮切りに第55回の記念大会と位置づけ、13日の花火大会、14日の総おどりを実施する。	継続	観光交流課
16	高松秋のまつり・仏生山大名行列	高松の四季を表すまつりの一つとして、市民をはじめ、多くの観光客にも親しまれるまつりを目指すとともに、中心会場となる高松南部地域の活性化に寄与する。	昨年度決算額：9,754千円 今年度予算額：9,754千円	入込客数	平成25年度 130,000人 平成26年度 150,000人 平成27年度 145,000人 平成28年度 145,000人 平成29年度 117,000人 平成30年度 155,000人	132.5%	高松市立仏生山公園や仏生山商店街を会場に、野外劇場やよろず処、黒門市等さまざまな催しを行う。	昨年度に引き続き、高松市立仏生山公園や仏生山商店街を会場に、大名行列のほか、野外劇場やよろず処、黒門市等さまざまな催しを行う。	継続	観光交流課

【交流プロジェクト】地域を通して世界につながる交流へ

No	主な取組事業名	主な取組事業概要	昨年度決算額及び今年度予算額	実施実績	実施実績	実施実績の前年度からの上昇率	令和元年度事業内容	令和2年度事業見込	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)
17	高松まちかど漫遊帖	本実行委員会において、ガイドブック「高松まちかど漫遊帖」を春と秋の2回計画し、4月頃～6月頃までの期間において春編を、10月頃～12月頃までの期間において秋編を毎年開催している。	昨年度決算額：2,178千円 今年度予算額：2,200千円	参加者数	【開催回数/延べコース数/延べ参加者数】 平成25年度 2回/44コース/476人 平成26年度 2回/33コース/385人 平成27年度 2回/47コース/562人 平成28年度 2回/47コース/455人 平成29年度 2回/48コース/469人 平成30年度 2回/51コース/500人	開催回数：100.0% 延べコース数：106.3% 延べ参加者数：106.6%	これまでと同様に、高松市・高松市周辺で、市民が主体的に歴史・観光・産業のまちづくりや商品づくりに資することを目的として、ガイドブック「高松まちかど漫遊帖」の制作・運営を中心とした、まちあるき事業等の各種事業を行う。	昨年度に引き続き、春編と秋編のガイドブックを作成し、まち歩き事業を展開する。一方で、顧客のニーズに対応すべく、インターネットやSNSを用いた広報等の強化を図る。	継続	観光交流課
18	SETOUCHI SUMMER NIGHT FESTIVAL	「アート県・香川」としてのイメージを定着させるとともに、交流人口の拡大を目的として、瀬戸内海を臨むウォーターフロントの特性を生かし、アート色豊かなイベントを開催する	昨年度決算額：7,358千円 今年度予算額：6,111千円	来場者数	平成26年度 35,000人 平成27年度 52,000人 平成28年度 20,300人 平成29年度 31,250人 平成30年度 32,111人	102.8%	瀬戸内国際芸術祭夏会期に合わせ、例年以上に魅力ある食ブースや「真夏の夜の夢」ステージを展開する。	昨年度に引き続き、多彩な食ブースやステージイベント等を展開し、夏期の夜型観光コンテンツの一つとして、瀬戸内の魅力を広く発信する。	継続	観光交流課
19	MICE振興事業	本市が有するMICE開催に必要な機能の更なる充実や有機的な連携を図ることにより、高松ならではのMICE誘致を展開するため、MICE振興戦略に基づく施策を推進する。	昨年度決算額：41,738千円 今年度予算額：44,202千円	コンベンション開催件数	平成25年度 203件 平成26年度 226件 平成27年度 217件 平成28年度 214件 平成29年度 226件 平成30年度 217件	96.0%	引き続き、香川県MICE誘致推進協議会及び（公財）高松観光コンベンション・ビューローと連携しながら、MICEの受入態勢の強化や大規模MICEの誘致に取り組む。	引き続き、（公財）高松観光コンベンション・ビューローや香川県MICE誘致推進協議会と連携しながら、大規模MICEや政府系国際会議の誘致及び開催支援、関係機関との連携による受入態勢の強化に取り組む。	継続	観光交流課
20	「気持ち高まる、高松。」シティプロモーション事業	高松を知らない層に対して、効果的な情報発信を行うことにより、本市に対するポジティブなイメージの浸透を図り、観光・MICE誘致のみならず、移住・定住促進、シビックプライド醸成などにつなげる。	昨年度決算額：4,638千円 今年度予算額：4,457千円	サイト訪問件数	平成30年度 63,459件	—	引き続き、多言語サイト「エクスペリエンス高松」により情報発信を行う。	「エクスペリエンス高松」において本市ならではの魅力的な体験型コンテンツの記事充実を図るとともに、2年度以降大規模なサイト改修を行い、旅ナカでのお役立ち情報の充実も図っていく。	継続	観光交流課
21	せとしるべ（高松港玉藻防波堤灯台）夜間特別公開	“灯台のまち高松”事業の一つとして、若年層への認知度向上及びメディアの拡散効果を狙って、日中は毎年開催されているものの、夜間は開催されてこなかったせとしるべの特別公開を行う。	昨年度決算額：200千円 今年度予算額：0千円	高松市創造都市推進局Facebookにおける「灯台」関連発信記事のリーチ数	平成30年度 18,358件	—	高松海上保安部と連携の上で、引き続き、夜間特別公開を行う。	高松海上保安部と連携の上で、引き続き、夜間特別公開を行う。	継続	観光交流課

【交流プロジェクト】地域を通して世界につながる交流へ

No	主な取組事業名	主な取組事業概要	昨年度決算額及び今年度予算額	実施実績	実施実績	実施実績の前年度からの上昇率	令和元年度事業内容	令和2年度事業見込	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)
22	瀬戸内国際芸術祭2019	文化芸術の振興と、瀬戸内の活性化や地域振興を、世界に向けての情報発信に寄与するため、現代アートの作家や建築家と協働する国際的な芸術祭と位置付けて、香川県・関係市町及び福武財団などとともに開催する瀬戸内国際芸術祭を推進していきます。 瀬戸内国際芸術祭2016においては、これまでも増して充実したアート作品やイベントが加わり、外国人来場者の割合が前回よりも8ポイント以上増加しました。今後も市独自の関連事業を積極的に実施し、内陸部への観光客の誘客も回り、本市の活性化につなげていきます。	昨年度決算額：2,800千円 今年度予算額：2,540千円	トータル来場者/ 外国人の割合(アンケート調査) / 経済波及効果	2010年 938,246人/1.1%/ー億円 2013年 1,070,368人/2.6%/132億円 2016年 1,040,050人/13.4%/139億円	—	香川県・関係市町及び福武財団などとともに、瀬戸内国際芸術祭2019を開催する。 (シーズ ンテーマ) 春会期 4/26~5/26 ふれ あう春 夏会期 7/19~8/25 あつ まる夏 秋会期 9/28~11/4 ひろ がる秋 (計107日間) 高松市内における会場は、高松港 周辺、男木島、女木島、大島	ART SETOUCHIとして継続作品が公開される見込みなので、本市として、各事業の広報活動を行うとともに、県瀬戸内国際芸術祭推進課や県内市町、市内各島等と連携・調整しながら、より円滑な事業実施体制を構築していく。	継続	文化芸術振興課
23	高松国際ピアノコンクール	音楽芸術の振興と国際的な文化交流を図ることにより、地域に根ざした文化芸術の創造と振興に寄与することを目的として、民間主導により行われる国際的なピアノコンクールの開催を支援します。 第3回高松国際ピアノコンクール(平成25年度開催)の翌年度からは、同コンクール組織委員会の実施事業以外に、本市と組織委員会が連携した取組として、学校訪問リサイタル※、コンクール審査員による演奏会や公開レッスンを実施し、今後は、平成30年の第4回開催を契機に本市の音楽文化の交流の場を広げるとともに、その発展を目指していきます。	昨年度決算額：なし 今年度予算額：1,900千円	大会参加人数/観客数	平成18年 306人/11,250人 平成22年 243人/7,550人 平成26年 239人/7,180人 平成30年 332人/10,230人	—	推進事業として、30年度同様のメニューを実施。 ①審査員、優勝者の演奏会 ②審査員、優勝者によるマスタークラス(公開レッスン) ③学校訪問リサイタル ④子どもたちとファイナリストの演奏会	推進事業として、R1年度同様のメニューを実施予定。R3年度の第5回コンクール開催に向けて機運を醸成していく。 ①審査員、優勝者の演奏会 ②審査員、優勝者によるマスタークラス(公開レッスン) ③学校訪問リサイタル ④子どもたちとファイナリストの演奏会	継続	文化芸術振興課
24	かがわ山なみ芸術祭	芸術を軸とした地域の活性化を図るため、県内在住のアーティストと国内外の優れたアーティストが連携し、現代美術作品の展示やワークショップを実施します。地域の歴史文化や風土を作品制作における重要なテーマとし、そこでしか見ることができないアートイベントを目指します。	昨年度決算額：なし 今年度予算額：1,900千円	来場者数	2016 ■会期 第1期 4月29日(金)~5月22日(日) 第2期 9月17日(土)~10月9日(日) 第3期 10月29日(土)~11月13日(日) ■会場(高松市エリア) 塩江美術館・上西小・塩江小・温泉通りを中心とした塩江町内を会場とし、ことでん瓦町駅ビルでプレイベントを実施。 ■来場者数(高松市エリア) 瓦町FLAG(プレイベント) 700人 塩江町 2,826人	—	瀬戸内国際芸術祭2019の秋会期に合わせ、かがわ・山なみ芸術祭を開催。高松市内においては、塩江町(塩江美術館・上西地区)を会場とする。	実施予定なし(瀬戸芸開催年度のみ)	継続	文化芸術振興課

No	主な取組事業名	主な取組事業概要	昨年度決算額及び 今年度予算額	実施実績	実施実績	実施実績の 前年度からの上昇率	令和元年度事業内容	令和2年度事業見込	今後の方向性 (拡充、継続、改善継 続、縮小、統合、完 了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)
25	まちなかパフォーマンス事業 ・TAKAMATSU MUSIC BLUE FES ・サンポートオータムジャム ・高松フラストリート ・街クラシックin高松 ・たかまつ大道芸フェスタ	市民の文化芸術への関心を高めるとともに、まちかどに芸術のあふれる「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するため、サンポート高松や商店街等で、アートに関連した各種イベントを実施します。 今後は、音楽やパフォーマンス等を通して、市民や観光客が、中心市街地において文化芸術を気軽に楽しめる空間づくりを推進します。	昨年度決算額：3,000千円 今年度予算額：3,500千円	【TAKAMATSU MUSIC BLUE FES】観客数 (平成25年、26年は街角に音楽をフェスティバル)	平成25年度 6,850人 平成26年度 7,610人 平成27年度 20,200人 平成28年度 26,370人 平成29年度 26,370人 平成30年度 26,900人	102.0%	「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するとともに、瀬戸内国際芸術祭2019の開催効果を高めるため、例年より内容を拡充して実施。	引き続き、「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するため、各イベントを継続実施する。	継続	文化芸術振興課
			昨年度決算額：1,000千円 今年度予算額：1,000千円	【サンポートオータムジャム】観客数 (平成25年度、26年度はワールドダンスフェスティバル)	平成25年度 3,100人 平成26年度 650人 平成27年度 3,800人 平成28年度 1,500人 平成29年度 1,600人 平成30年度 1,600人	100.0%	「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するため、引き続き実施。	引き続き、「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するため、各イベントを継続実施する。	継続	文化芸術振興課
			昨年度決算額：500千円 今年度予算額：500千円	【高松フラストリート】観客数	平成25年度 6,800人 平成26年度 7,800人 平成27年度 8,600人 平成28年度 9,500人 平成29年度 10,500人 平成30年度 12,600人	120.0%	「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するため、引き続き実施。	引き続き、「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するため、各イベントを継続実施する。	継続	文化芸術振興課
			昨年度決算額：500千円 今年度予算額：1,000千円	【街クラシックin高松】観客数	平成25年度 6,470人 平成26年度 1,630人 平成27年度 3,300人 平成28年度 1,670人 平成29年度 1,020人 平成30年度 1,650人	161.8%	「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するため、引き続き実施。	引き続き、「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するため、各イベントを継続実施する。	継続	文化芸術振興課
			昨年度決算額：4,000千円 今年度予算額：4,000千円	【たかまつ大道芸フェスタ】観客数	平成25年度 27,600人 平成26年度 38,000人 平成27年度 46,600人 平成28年度 54,500人 平成29年度 62,250人 平成30年度 66,060人	106.1%	「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するとともに、瀬戸内国際芸術祭2019の開催効果を高めるため、例年より内容を拡充して実施。	引き続き、「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するため、各イベントを継続実施する。	継続	文化芸術振興課

No	主な取組事業名	主な取組事業概要	昨年度決算額及び今年度予算額	実施実績	実施実績	実施実績の前年度からの上昇率	令和元年度事業内容	令和2年度事業見込	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)
26	アーティスト・イン・レジデンス事業	(高松アーティスト・イン・レジデンス) 高松市内の活用されていない資源(例えば、空き家、廃校、商店街の空き店舗等)を活用し、国内外から招へいたアーティストが一定期間滞在し、地域とのつながりの中で作品制作を行うことで、地域との協働が生まれ、地域に賑わいをもたらすとともに、アートの普及や若手アーティスト等の育成にもつなげます。	昨年度決算額：1,859千円 今年度予算額：なし	応募件数・実施事業数	平成27年度 応募17件、実施3件 平成28年度 応募40件、実施3件 平成29年度 応募15件、実施3件 平成30年度 応募27件、実施2件	応募件数：180.0% 実施事業数：66.7%	高松アーティスト・イン・レジデンス事業については、瀬戸内国際芸術祭の開催年度を除いて実施。	平成30年度に続き3事業程度を実施することとし、公募に当たっては、従来の選考方法を検証し、適宜見直しを行う。	継続	文化芸術振興課
		(大島アーティスト・イン・レジデンス) 県内外の小学生から中学生までの子どもたちが参加し、大島に宿泊するサマーキャンプを実施します。入所者との交流によりハンセン病の歴史を学び、歴史的遺産の伝承に資するとともに、大島の自然、瀬戸内国際芸術祭の作品鑑賞、アーティストによるワークショップ体験を通じ、大島の魅力を伝え、将来にわたる島の振興を図ります。	昨年度決算額：2,000千円 今年度予算額：2,000千円	参加児童・生徒数	平成27年度 32人 平成28年度 22人 平成29年度 25人 平成30年度 21人	84.0%	大島アーティスト・イン・レジデンス事業は、長期的な大島の振興につながる交流促進の取組みとして、瀬戸内国際芸術祭2019とも効果的に連携しながら実施。	長期的な大島の振興につながる交流促進の取組みとして、引き続き実施する。	継続	文化芸術振興課
27	高松市文化芸術ホール改修事業	高松市文化芸術ホールは平成30年度で開館から14年が経過し、音響・照明・舞台設備等、更新が必要となるとともに、ホールのつり天井は既存不適格建築物として改修等の対応が必要になっています。そのため、更新・改修に係る工法・範囲等の調査検討の上、効率的な更新改修計画に基づき実施設計し、休館期間を設けて全面的に更新・改修を行います。	昨年度決算額：29,808千円 今年度予算額：69,552千円	設備更新・建物改修に係る進捗率	平成30年度 30%	—	工法検討業務の結果を受け、真に必要な改修箇所や休館期間を検討しながら改修計画を策定する。	工事コストの最適化を念頭に置きながら、実施設計業務委託を実施する。	継続	文化芸術振興課
28	高松城跡等整備事業	城下町高松のシンボルとなる特徴的な城郭を後世まで守り伝えるため、史跡高松城跡保存整備基本計画に基づき、石垣や披雲閣など各施設の保存修理や桜御門の復元に努める。また、天守の復元に向けて資料調査を行う。	昨年度決算額：25,094千円 今年度予算額：176,382千円	玉藻公園入園者数	平成25年度 178,776人 平成26年度 194,026人 平成27年度 218,264人 平成28年度 238,146人 平成29年度 228,385人 平成30年度 202,161人	88.5%	史跡高松城跡保存活用計画の作成に着手する。また、桜御門復元整備工事を実施するとともに、披雲閣の耐震診断の実施及び蘇鉄の間の耐震補強工事の実施設計を作成する。	史跡高松城跡保存活用計画の作成を継続する。桜御門復元整備工事を実施する。披雲閣蘇鉄の間の耐震補強工事を実施する。	継続	文化財課
29	文化財保存活用推進事業	市内指定等文化財の適切な保存を行うとともに、市民に公開する良好な環境を提供する。	昨年度決算額：18,116千円 今年度予算額：17,299千円				引き続き、市内指定等文化財の適切な保存を行うとともに、市民に公開する良好な環境を提供する。	引き続き、市内指定等文化財の適切な保存を行うとともに、市民に公開する良好な環境を提供する。	継続	文化財課
30	中国・四国パラ陸上競技大会	平成29年4月の屋島レクザムフィールドのオープンに伴い、7月に同会場にて四国で初開催し、今後、平成31年、2020年の2年連続で開催します。また、大会前日にはパラリンピアンとの交流事業、義足体験授業を実施するほか、大会当日も障がい者スポーツ体験を実施し、障がい者スポーツの推進に努めます。	昨年度決算額：0千円 今年度予算額：200千円	大会参加人数	平成29年度 112人 平成30年度 未開催 令和元年度 105人	93.8%	6月29日(土) 中国・四国パラ陸上競技大会開催	6月27日(土) 中国・四国パラ陸上競技大会開催	継続	スポーツ振興課

No	主な取組事業名	主な取組事業概要	昨年度決算額及び今年度予算額	実施実績	実施実績	実施実績の前年度からの上昇率	令和元年度事業内容	令和2年度事業見込	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)
31	障がい者スポーツ推進事業	障がい者スポーツの推進を図るため、本市スポーツ施設における環境整備や障がい者スポーツ大会の誘致等を通じて、障がい者スポーツ人口の増大と競技力の向上に取り組みます。	昨年度決算額：13,400千円 今年度予算額：1,773千円 ※16中国・四国パラ陸上競技大会事業費を含む				中国・四国パラ陸上競技大会を開催するほか、施設のバリアフリー改修工事を実施する。	中国・四国パラ陸上競技大会を開催するほか、全国規模のパラ陸上競技大会の定期誘致開催に向けての準備を行う。 また、市民の障がい者スポーツへの興味関心を高めていただくため、パラアスリートの周知広報事業や、スポーツ推進委員等と協力して各地域において体験等を実施する。	継続	スポーツ振興課
32	トリムの祭典	昭和54年度から、毎年体育の日に中央公園等において、誰もが気軽に挑戦・体験できる市民総参加型のスポーツ・レクリエーションイベントとして開催しています。公園内では、ニュースポーツ体験、健康チェックコーナー、ヨガや太極拳等のステージイベント、御当地キャラとの触れ合いなど、また、公園外では、ウォーキング、サイクリング、ちびっ子鬼ヶ島探検などを実施しています。	昨年度決算額：2,000千円 今年度予算額：2,000千円	参加者数	平成25年度 5,000人 平成26年度 中止 平成27年度 6,000人 平成28年度 6,000人 平成29年度 6,000人 平成30年度 6,000人 令和元年度 6,000人	100.0%	体育の日（10月14日）に中央公園等において、誰もが気軽に挑戦・体験できる市民総参加型のスポーツ・レクリエーションイベントを開催します。公園内では、ニュースポーツ体験、健康チェックコーナー、ヨガや太極拳等のステージイベント、御当地キャラとの触れ合いなど、また、公園外では、ウォーキング、サイクリング、ちびっ子鬼ヶ島探検などを実施する予定です。	10月11日に中央公園等において、誰もが気軽に挑戦・体験できる市民総参加型のスポーツ・レクリエーションイベントを開催します。公園内では、ニュースポーツ体験、健康チェックコーナー、ヨガや太極拳等のステージイベント、御当地キャラとの触れ合いなど、また、公園外では、ウォーキング、サイクリング、ちびっ子鬼ヶ島探検などを実施する予定です。	継続	スポーツ振興課
33	東京2020オリンピック・パラリンピック関連事業 (事前合宿誘致・実施)	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、事前合宿誘致等に努めるほか、オリンピック・パラリンピアンを招聘しスポーツイベントを実施するなど、機運醸成を図ります。	昨年度決算額：- 今年度予算額：1,361千円				台湾パラ陸上の事前合宿について中華台北パラリンピック委員会と基本合意に至り、基本合意書調印式を開催した。また、オリンピック自転車競技に関して、台湾と事前合宿に関する誘致交渉を行う。	台湾パラ陸上代表選手団の事前合宿を実施する。また、誘致交渉がまとまれば、台湾オリ自転車代表選手団の事前合宿を実施する。	継続	スポーツ振興課
34	東京2020オリンピック・パラリンピック関連事業 (交流事業)	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、事前合宿誘致等に努めるほか、オリンピック・パラリンピアンを招聘しスポーツイベントを実施するなど、機運醸成を図ります。	昨年度決算額：- 今年度予算額：6,439千円				中・四国パラ陸上競技大会開催に併せて、オリンピック・パラリンピック機運醸成に向けた東京2020マスコットとの記念撮影や各種スポーツ体験を実施。 パラリンピアンと地元保育園児や小学生児童との交流事業を実施。 2019世界パラ陸上競技選手権大会日本代表合宿を実施。 高松スポーツ・健康感謝祭2020において、障がい者スポーツ体験（レーザー試乗、ポッチャ、パラサイクリング）のほか、オリパラ競技種目の体験や聖火リレーブースを設け、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成にも繋げる。	オリンピックを招いた交流事業をオリンピック後に実施する。また、東京パラ後にパラリンピアン（東京パラメダリスト）との交流事業を実施する。 東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催中には、市民のオリ・パラに対する興味関心を高めるため、パブリックビューイングを開催する。	継続	スポーツ振興課

No	主な取組事業名	主な取組事業概要	昨年度決算額及び今年度予算額	実施実績	実施実績	実施実績の前年度からの上昇率	令和元年度事業内容	令和2年度事業見込	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)
35	東京2020オリンピック・パラリンピック関連事業 (聖火リレー事業)	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、事前合宿誘致等に努めるほか、オリンピック・パラリンピアンを招聘しスポーツイベントを実施するなど、機運醸成を図ります。	昨年度決算額：- 今年度予算額：4,200千円				聖火リレールート・ランナー選定 警備計画策定 ミニセレブレーション・セレブレーションの内容検討等 パラ聖火フェスティバル内容検討等	4月19日の聖火リレー高松市区間実施に合わせたミニセレブレーション・セレブレーションを実施する。また、東京2020パラリンピック競技大会開催に合わせてパラ聖火フェスティバルを実施する。	継続	スポーツ振興課
36	高松市美術館サポートショップ事業	会期中の特別展チケットの半券、又は有効期間中の定期観覧券（年間パスポート）を提示すると、参加店舗で割引などの特典を受けることができる。また、各サポートショップに「高松市美術館サポートショップ利用者割引券」を設置し、サポートショップ利用のお客様がその割引券を美術館に持参すると特別展観覧料が割引になる相互割引制度を導入し、商店街周辺のにぎわいづくりにつなげていく。	昨年度決算額：180千円 今年度予算額：183千円	【参加店舗数】	【参加店舗数】 平成24年度39店 平成25年度53店 平成26年度69店 平成27年度119店 平成28年度147店 平成29年度145店 平成30年度134店 平成31年度125店	93.3%	引き続き、参加していただいている店舗と協力し、美術館を含め商店街周辺のにぎわいづくりにつなげていく。事業の認知度をあげるため、観光案内所等へのサポートショップマップ配布を行い、展覧会受付で声かけ等を行う。	引き続き、参加していただいている店舗協力し、美術館を含め商店街周辺のにぎわいづくりにつなげていく。事業の認知度をあげるため、観光案内所等へのサポートショップマップ配布を行い、展覧会受付で声かけ等を行う。	継続	美術館美術課
37	市民活動センター運営事業	市民と行政が共に考え、共に活動する協働の場として設置している市民活動センターを管理運営し、センター事業を実施します。	昨年度決算額：21,124千円 今年度予算額：21,390千円	【市民活動センター】総利用者数	平成25年度 3,180人 平成26年度 3,218人 平成27年度 15,429人 平成28年度 19,752人 平成29年度 23,977人 平成30年度 21,311人	88.9%	中間支援組織としての機能を充実し、市民活動団体等への活動の更なる支援強化を図るとともに、市民活動団体等と地域との連携強化のためマッチングに積極的に取組む。センター職員のスキルアップを行うとともに、市民に気持ちよく利用してもらえるよう親しみやすい窓口づくりにも取組み、相談事業の強化・充実を図る。	中間支援組織としての機能を充実し、市民活動団体等への活動の更なる支援強化を図るとともに、市民活動団体等と地域との連携強化のためマッチングに積極的に取組む。センター職員のスキルアップを行い、市民に気持ちよく利用してもらえるよう親しみやすい窓口づくりにも努め、相談事業の強化・充実を図る。	継続	男女共同参画・協働推進課
38	障がい者アートリンク事業	芸術活動を通じて障がい者の感性・想像力を育み、障がい者の社会参加の促進を図るため、希望する障害福祉サービス事業所等へ芸術家を派遣し、創造性の芽を持つ障がい者とアーティストが長期継続的に関わることで生まれる新しい概念をかたちにする創作活動を支援します。	昨年度決算額：12,488千円 今年度予算額：12,512千円	派遣先事業所	平成26年度 6か所 平成27年度 8か所 平成28年度 9か所 平成29年度 10か所 平成30年度 12か所	120.0%	引き続き、芸術活動を通じて障がい者の感性・想像力を育み、障がい者の社会参加の促進を図る。	多様な分野のアーティストが参加することで、障がい者の芸術活動の幅を広げるとともに、多くの障がい者が参加できるよう参加事業所の希望を汲みながら活動方法を工夫する。	継続	障がい福祉課
39	高松の台湾夜市 in北浜アリー	交流協定を締結している台湾基隆市を広くPRし、関心を高めてもらうとともに、台湾を相手地域とするホストタウンとして、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の機運を醸成することを目的とする。	昨年度決算額：1,500千円 今年度予算額：非公開	来場者数	平成30年度 4,200人	—	2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、多くの市民に台湾の文化や食を体験してもらうことで、台湾に親しみを感じてもらう。	—	完了	観光交流課
40	中華台北パラリンピック委員会及びパラリンピアンを招へいした交流事業	ホストタウンの対象地域である台湾から、中華台北パラリンピック委員会及びパラリンピアンを招へいた交流事業を実施する。パラリンピアン等との交流を通して、市民にパラリンピックや障がい者に関心を持ってもらうきっかけとするほか、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた機運を醸成する。	昨年度決算額：924千円 今年度予算額：1,500千円	参加者数	平成30年度 4,280人	—	6月29日開催の「2019中国・四国パラ陸上競技大会」に、中華台北パラリンピック委員会及びパラリンピアン等を招へいし、参加してもらうほか、小学校での交流事業も行う。	—	完了	観光交流課

No	主な取組事業名	主な取組事業概要	昨年度決算額及び 今年度予算額	実施実績	実施実績	実施実績の 前年度からの上昇率	令和元年度事業内容	令和2年度事業見込	今後の方向性 (拡充、継続、改善継 続、縮小、統合、完 了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)
41	高松市文化芸術ホール開館 15周年記念事業	高松市文化芸術ホールは、本市の文化芸術の核であるべき施設であり、サンポート地区の賑わい促進に寄与する施設です。当該ホールの役割が重要となる中、15周年記念事業を実施することにより、より多くの市民が集い、楽しめるホールを目指すとともに、教育文化施設、市民文化団体等とも連携し、20周年を見据えた取り組みを図ります。(事業期間：平成30年～31年)	昨年度決算額：1,000千円 今年度予算額：5,000千円	開館15周年記念事業の来場者数	公演メニューを決定 広報を実施	—	開館15周年記念事業として、通常より拡充した各メニューを実施。	R1で事業完了	完了	文化芸術振興課